

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第1号 野菜

発行日 平成23年 3月23日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

《東北地方太平洋沖地震の影響に対する技術情報》

- 施設等の修復が可能なものは安全に十分配慮して補修を行いましょう。また、暖房機等の機械は保守点検を励行し、燃料漏れがないかなどを確認し、安全運転に努めましょう。
- 暖房機の故障や燃料の不足等により稼働が困難な場合は、内張り保温資材の多重化や隙間抑制等保温性の向上に努めます。
- ハウス果菜類向けの育苗では、停電の影響で温度確保が困難となった施設が多いと見込まれ、生育抑制や奇形果等の不良果の発生が想定されることから、定植時の地温確保や施設内の適切な温度管理に努めて初期生育を確保するとともに、適切な着果管理等により草勢管理を徹底しましょう。

《定期情報》

- ◆ 圃場にたまった雪解け水の排水に努め、は種、定植の準備を進めましょう。
- ◆ 計画的なは種・育苗で、適期作業に努めましょう。
- ◆ 施設栽培では定植前後の地温確保、保温管理により活着促進を図ります。
- ◆ 育苗中の苗は温度管理を徹底し、不良果の発生や徒長を防ぎましょう。

1 融雪・排水対策、圃場準備について

雪解けは進んでいますが、今後の天候によっては融雪、排水の遅れによる圃場準備の遅れも心配されます。予定より雪解けが遅れている場合は融雪、排水対策を実施し、は種、定植作業が遅れないようにしましょう。

(1) 施設野菜

- ア 冬期間にビニールを外していたハウスでは、早めにビニールを張り、地温上昇を図りましょう。
- イ 雪解け水や雨水の流入に備え、排水溝の点検を行い圃場の乾燥に努めます。ビニール被覆後、施肥・耕起・畦立て及びマルチング等は、定植 10 日前には終えて、十分に地温を確保しましょう。
- ウ 育苗期後半となり、高温により苗の生育が進み、軟弱徒長になる場合があるので、ずらしを行い徒長しないように心掛けます。

(2) 露地野菜

- ア レタス等の葉菜類は定植時期を迎えます。育苗中は温度管理を徹底し、徒長を防止しましょう。また、適期定植するために、明きよを掘るなどして排水を促し、圃場準備はできるだけ早めに行いましょう。
- イ マルチを利用する品目では、適湿時にマルチを張って地温を高め、発芽や活着を促進させましょう。また、べたがけ資材を準備し、低温、降霜による傷みを回避しましょう。

2 果菜類の育苗・定植準備

果菜類の苗は、定植時には既に上位の花芽の分化が進んでいます（表1）。

定植時の低温や活着の遅れは、上位の果実にも大きく影響しますので注意しましょう。

表1 主要果菜品目の生育ステージと花芽分化

品目	生育ステージ	花芽分化
きゅうり	本葉3枚時	15節まで分化
トマト	本葉8枚時	3段花房まで分化
ピーマン	本葉13枚時	第5次まで分化

(1) 露地果菜類

露地きゅうり、簡易雨よけトマト、露地ピーマン等の育苗管理では、播種床や移植床の地温確保をしっかり行い、生育ステージに応じた温度管理に努めましょう。なお、県内では電熱温床線を利用した温度確保が主流ですが、電力事情により使用できない場合には、日中に蓄熱したハウス内の保温効率を高めるため多重被覆を行うとともに、育苗床の保温は保温性の優れる農ビを使用し、さらに断熱シートや反射シート等をかけます。

(2) ハウスきゅうり

ア 本葉3～3.5枚のやや若苗定植とします。定植5～6日前から夜温を15℃程度とし、順次ずらしを行うとともにかん水を控えて徒長を防ぎましょう。

イ 3月下旬～4月上旬の定植では、保温または補助暖房が必要です。地温の上昇が期待できるマルチの利用や内張りカーテン、トンネル被覆の他、温水チューブをマルチ上に設置するなど、地温確保と保温に努めましょう。

ウ 定植後は、主茎長30cm（または5節）までの雌花と側枝を除去します。草勢が弱い時は、10節位までの雌花も摘果し、草勢回復を図ります。

活着後は湿度をやや高めに管理し側枝の発生を促します。

(3) 雨よけトマト

ア 育苗期に極端な低温に遭うと、低段花房にチャック果、窓あき果などの障害果が発生しますので、夜温は10℃以下にならないよう保温が必要です。育苗期のカルシウム剤の葉面散布も有効です。

イ 苗が生長するにしたがい、順次ずらしを行い、徒長苗防止、葉かび病等の発病防止に努めましょう。

ウ 定植は1段花房が1～2花咲いた頃の苗をやや浅植えします。活着を促進するために地温15℃以上を確保するためにマルチ利用に加えてトンネル被覆による保温、または補助暖房の準備を行います。

(4) ハウスピーマン

ア 定植前までは生育抑制等を防ぐため、15℃以下にならないよう保温に努めます。定植5日前から夜温を15℃程度に下げて、かん水も控えめにします。肥料切れの場合は、液肥を施用します。

イ 定植は、地温18℃を確保できるようにマルチ栽培やトンネル被覆による保温、または補助暖房の準備が必要です。定植後、根鉢が乾かないよう株元に手かん水し、活着を確認した後はかん水チューブによるかん水に切り替えます。

3 葉菜類のは種・育苗・定植準備

(1) キャベツ

ア 気温の上昇に伴い、苗の生育も早まります。定植が遅れると老化苗となり活着の遅れ、玉揃い、品質の低下につながります。育苗時の温度管理を徹底して、苗を徒長させないようにしましょう。128穴のセルトレイでは本葉3～3.5枚がこの時期の定植適期の目安です。

イ 早春は種のは種作型では、定植後の活着促進、霜による傷みの防止、初期生育の促進を目的として、べたがけ資材の利用が有効です。

(2) レタス

ア 苗を徒長させないように育苗管理に注意するとともに、圃場準備を早めに行い、適期の定植を心がけましょう。

イ キャベツ同様、定植後にべたがけ資材を利用して、生育促進、霜害防止を図りましょう。

ウ キャベツ、レタスとも低温には比較的強い作物ですが、活着する前の強い低温により枯死する場合がありますので、特に定植直後はべたがけ資材による保温を心がけましょう。

表2 主なべたがけ資材とその特性（「施設園芸ハンドブック」等より引用）

種類	素材	商品名の例	耐候性	強度	資材面の結露	透光率	耐用年数
長繊維不織布	ポリプロピレン	パオパオ 90	△	△	有	90%	1～2年
	ポリエステル	パスライト	○	△	有	90%	1～2年
割繊維不織布	ポリエチレン	日石ワリフ	△	○	少	90%	2～3年
	ポリビニルアルコール	ベタロン	◎	◎	極少	93%	5～7年

(3) 雨よけほうれんそう

ア 雪解け水だけに頼って春一作目を栽培すると、水分が不足したり、生育にムラが生じたりします。かん水をしっかり行って栽培しましょう。

イ は種後にべたがけ資材を用いることにより、発芽揃いが良くなりますが、長期間の被覆は徒長、抽だいの原因となるので、生育が揃った時点で除去します。

ウ 低温期の作型では、ケナガコナダニ類の食害が多発しています。前年に発生が見られた圃場では、本葉の出始め頃に殺虫剤を十分量丁寧に散布します。また、は種前の未熟有機物（モミガラ、わらなど）の施用は被害を助長するので止めましょう。被害の見られた株は、必ず圃場外に持ち出して処分します。

(4) ねぎ

ア 育苗日数は、地床苗で70～90日間、セル育苗で55～60日間、チェーンポット育苗で45～60日間が目安となります。日中の高温、育苗培土の過乾燥に注意しましょう。葉色が薄い場合はかん水を兼ねて液肥を希釈して施用します。

イ 定植圃場の植え溝は管理機等で深さ15～20cm程度にします。土壌水分が多い時の植え溝掘りや定植作業は、活着不良と欠株の要因となりますので、圃場排水対策を実施し、適湿時を選んで作業しましょう。